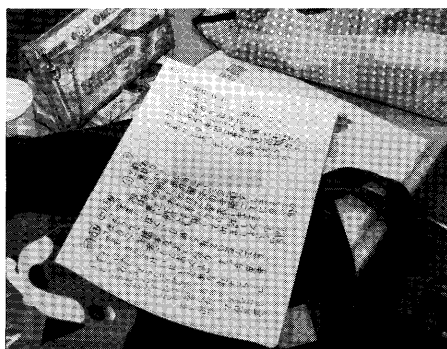


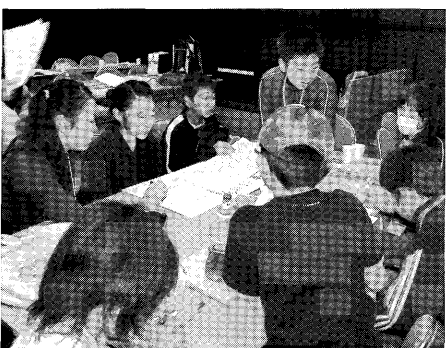
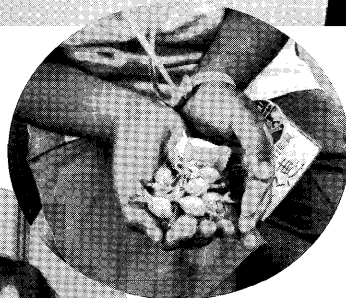


子どもの権利条約 フォーラム2009 in とやま
 話そう、伝えよう、大切なわたし！ ぼくの権利 わたしの気持ち 聞いてください！ 子どもの声を
主催：子どもの権利条約フォーラム2009 in とやま実行委員 開催協力：NPO法人子どもの権利支援センターばれっと 富山YMCA福祉会 富山県里親会 開催呼びかけ：子どもの権利条約ネットワーク





6月の発足以来、半年間に夏の合宿を含めて6回の子ども実行委員会を行う。実行委員会は、昼食を挟んでの長時間に渡ることもあったが、子どもの権利条約についての勉強時間もあり、おやつ時間もありと、緩急をつけながらの進行に努めた。途中、早くも次回のフォーラムにも参加したいという声もあり、終盤には「フォーラム後」にも想いを馳せながらの会となった。



[ポスターのリーダー]
高岡市立国吉小学校6年

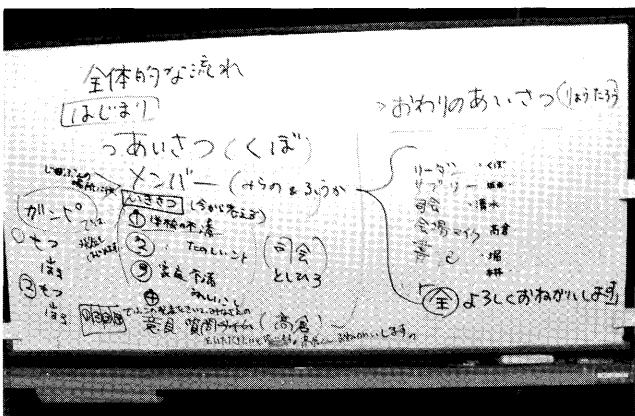
山崎明弘

初めてフォーラムに参加したとき、知らない人ばかりでどうやってこの人たちと一緒にやればいいのか、とても心配でした。

第4回目の子ども実行委員会のとき、分科会や担当を決めました。ぼくは、ポスターの担当になりました。ポスターの仲間で役割を決めました。副リーダーと記録は決まったけど、リーダーはなかなか決まりませんでした。だれもいなかったの、ぼくは自分から手をあげて、「リーダーをやります。」と言いました。話し合いでは、初めは全然意見が出てこなかったけど、大人実行委員の人が「こうしたらいんじゃない?」と言うと、それに対していろいろな意見が出たので、どんなポスターにするのか決まっていきました。14日は学校の行事で参加できなかったけど、他のメンバーが協力してカラフルにポスターをはってくれました。

閉会セレモニーでは、今までの感想を言いました。あんなに大きな会場の中で、すごく緊張しながら言いました。言い終わった後、すごくほっとしました。

このフォーラムで自分に自信がついたし、人権についても明橋先生から分かりやすく教えてもらいました。来年の仙台は、行けたら行きたいです。すごくいい勉強になったフォーラムでした。



[シンポジウムのリーダー]
射水市立大島小学校6年

清水俊宏

「子どもの権利条約フォーラム2009 in とやま」を行うために、春、子ども実行委員を募集している紙を見て思いました。「大人たちに自分の思いを伝える機会があるのだ」と、そして、ぼくはすぐに応募しました。そして、6月13日、その会場へ向かいました。初めは知らない学校の知らない子どもたち、知らない大人たちの中で自分の意見をしっかり伝えることができるのかと不安でした。そして0回の子ども実行委員会が始まって昼の休けいがあった時、こんな所では自分の意見が伝えられないと思って帰ろうかなやんでいるうちに、第1回の子ども実行委員会が始まってしまいました。第1回の子ども実行委員会が終わった時、次から参加しようかと悩みました。そして、第2回子ども実行委員会の日がきました。7月11日のことでした。そして、ぼくはその会場にいました。

どうしてその場所にいたかという、大人の人に自分の気持ちを伝える、ということはまだあきらめていなかったからだと思っています。

第2回では、前回よりも自分の気持ちを素直に表すことができるようになっていたと思います。

第3回の子ども実行委員会は、立山青少年自然の家での合宿でした。まだ2回くらいしか会っていない人たちの合宿は、とても不安でしたが、とてもやさしい人たちばかりで、安心しました。

1日目は、立山の美しい自然の中を散策したり、権利についての学習をしました。そして2日目、フォーラムでの役割を決めました。

ぼくは、シンポジウムのリーダーをしたくてその役になることができました。でも、みんなをまとめることができるのか、とても心配になっていたけど、子ども実行委員長石崎さんは、自分より低い学年の人との接し方がとてもうまいと思いました。

4・5回と実行委員会をくり返していくにつれて仲間なんだ、という気持ちが高まり、少しずつ、みんなをまとめていく自信になり始めました。みんなにシンポジウムの行い方について説明した時に、返事がもらえてとてもうれしくなりました。自分もやればできるのだと思いました。

そして子どもの権利条約フォーラム2009inとやまが開催されました。そして、開会セレモニーなどが終わって、シンポジウムが始まりました。司会がいきなり回ってきてとまどいましたが、みんなの協力で、無事に成功しました。

そして2日目の分科会も無事に終わって閉会セレモニーで歌を歌ったとき、やったぞっという達成感で胸がいっぱいになりました。今では、このメンバーに会えてとてもうれしかったです。

〔紙芝居のリーダー〕
砺波市立南部小学校5年

境 佑莉

子どもの権利条約実行委員会に参加したきっかけは、母の一言でした。

「これ面白そうだから、やってみなさいよ」

最初はいやだなと思っていました。「『権利』ってむずかしそう。友達もいないし」と、もんくばっかり思っていました。

そして、いやいや第0回の実行委員会にいてみるとそれがわかりました。

子どもには権利がある。参加する権利、ぎゃくたい、ほう力から守られる権利……。この言葉を聞いたとたん、『なんだか権利っておく深い。やってみる価値がありそうだ』と考えて、続けて参加することを決めました。

実行委員会の合宿があると聞いたときは、とてもびっくりしました。権利を学ぶだけでも楽しいのに、それだけを勉強するために合宿まで行けるとは夢のようでした。

当日はウキウキでバスに乗りこみました。

この合宿では、権利条約フォーラムの本番で何をするのか決めました。わたしは紙しばいをすることにしました。絵を書くのは好きだし自信があったからです。

それと、合宿に行ったことで友達もずいぶんふえました。

それに、自由をたくさん学びました。

自由はたいへんなこともありました。しゅう寝時間よりずっと遅くまで起きていたり、スタッフさんの顔に水性マジックで落書きしたり。楽しいけどびっくりしました。

合宿の後は、あわただしく時間がすぎて行きました。人数が少なくて作業はたいへんでした。本番までもセリフを作ったり、練習をしなくちゃいけないことがあって、本当に忙しかったです。

そして本番。いろんな人がインフルエンザで学校を休んだりしていたので、休む人がいないといいなと思っていました。ところが、とても大切な役の人が休みになってしまい、とても大変なじょうきょうになってしまいました。わたしはおろおろしてしまい、何とか始まるまで練習しようとていあんしましたが、「ぶっつけ本番でだいじょうぶ」といわれたのでそのままやりました。結果は大失敗。つらい結果でした。でも優しい大人の方がいたのでなんとかたえられて良かったです。

子どもにもちゃんと権利があるんだということを知って、今では母や父だけでなく、他の大人にも教えてあげています。これからも、権利について勉強していきたいです。



フォーラム終了後の記念撮影